

独立行政法人教員研修センター

平成 21 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

平成 21 年度

小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修

—社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむ—

報 告 書

平成 22 年 3 月

大阪府教育センター

目 次

プログラム名とその特徴

プログラムの全体概要

I 開発の目的・方法・組織

- 1 開発の目的
- 2 開発の方法・組織

II 開発の実際とその成果

- 1 開発の実際
- 2 実証研修における効果測定について
- 3 地域協議会からの提言
- 4 研修の成果

III 連携協力による研修についての考察

- 1 本研修で開発した関係機関との連携プログラムについて
- 2 南大阪地域大学コンソーシアムについて
- 3 連携の実績及び成果
- 4 連携によるメリット

IV その他

V 参考資料

- 1 本研修の日程表
- 2 地域協議会設置要綱
- 3 地域協議会の記録

VI 「キーワード」「人数規模」「研修日数（回数）」

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	平成 21 年度 小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成研修」 ー社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむー
プログラムの特徴	キャリア教育が求められている背景及び意義についての理解、小・中・高等学校各校段階におけるキャリア教育の実践事例の発表、キャリア教育に関する体験型学習、キャリア・カウンセリングの演習等を通じて、各校における自立した児童生徒をはぐくむためのキャリア教育プログラムを作成し、キャリア教育担当教員として必要な資質、知識、スキルを習得する。 (4つの柱) 1 地域及び各学校におけるキャリア教育担当教員を育成する。 2 南大阪地域大学コンソーシアムの地域連携型のキャリア教育コーディネータ養成研修プログラム（実証研修）との連携を図り、キャリア教育コーディネータを活用した実践の構築をめざす。 3 Web上で、教育委員会や学校、教員などだれでも利用できる南大阪地域大学コンソーシアムの検証システムを活用して本研修の効果を測定する。 4 指導教諭及び大学教授、南大阪地域大学コンソーシアム、近畿経済産業局、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会等によって構成される地域協議会を開催し、研修の評価及び改善を行う。

平成 22 年 3 月

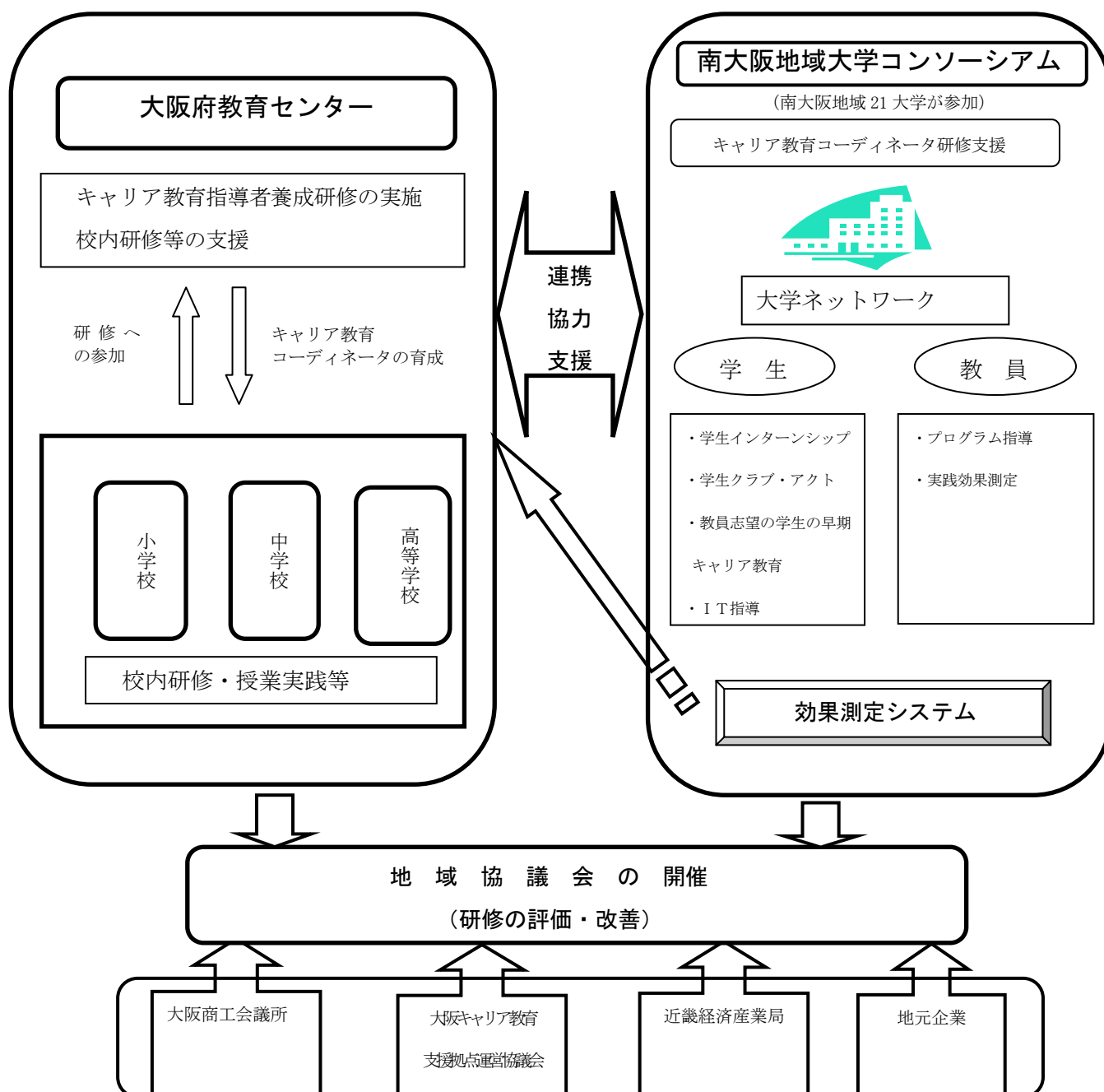
機関名 大阪府教育センター

連携先 特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム

プログラムの全体概要

本プログラムでは、下図の関係機関との連携協力体制スキームに基づき「キャリア教育指導者養成」研修を実施するとともに、研修終了後の受講者による授業実践によって地域連携型のキャリア教育コーディネータの育成を図った。また、地域協議会を定期的を開催することによって、研修内容の見直し及び評価、改善等を行った。

「キャリア教育指導者養成」研修実践に関する連携協力体制スキーム



I 開発の目的・方法・組織

1 開発の目的

近年、若年者を中心としたフリーターやニート（若年無業者）、早期離職者の増加等は深刻な社会問題となっており、PISAやTIMSSなどの国際調査においても、日本は、諸外国に比べて、現在の学習と将来とが結びつかない中学生や高校生の割合が高いことが明らかになっている。

そうした中で、平成11年2月の中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（答申）において、「小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要がある」と提言されて以来、初等中等教育におけるキャリア教育の在り方については、様々な研究や事業が行われてきた。また、平成20年1月の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（中央教育審議会答申）の中でも、社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項としてキャリア教育が取り上げられ、閣議決定された「教育振興基本計画」では、キャリア教育の推進が強く求められている。

しかし、各学校の現状を見ると、学校での「学び」と職業を含めた「将来」との関係に気付かせ、学習意欲の向上につなげるというキャリア教育の必要性を理解しながらも、キャリア教育の定義や受け止め方が多様で、教育課程の見直しや体験活動等の取組が十分行われているとは言えない状況にある。

そこで、各校においてキャリア教育を推進していくためには、地域及び各学校におけるキャリア教育コーディネータの育成が不可欠であると考え、キャリア教育担当教員として必要な資質、知識、スキルを習得する研修を実施した。

（研修の4つの柱）

- 1 地域及び各学校におけるキャリア教育担当教員を育成する。
- 2 南大阪地域大学コンソーシアムの地域連携型のキャリア教育コーディネータ養成研修プログラム（実証研修）との連携を図り、キャリア教育コーディネータを活用した実践の構築をめざす。
- 3 Web上で、教育委員会や学校、教員など、だれでも利用できる南大阪地域大学コンソーシアムの検証システムを活用して本研修の効果を測定する。
- 4 大学教授、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員等によって構成される地域協議会を開催し、研修の評価及び改善を行う。

(研修の主な内容)

- 1 キャリア教育が求められている背景及び意義についての理解
- 2 小・中・高等学校各校段階におけるキャリア教育の実践事例の発表
- 3 キャリア・カウンセリングの演習
- 4 キャリア教育に関する体験型学習
- 5 キャリア教育プログラムの作成

2 開発の方法・組織

(1) 対象者

小学校、中学校、府立高等学校及び府立支援学校（小学部、中学部、高等部）におけるキャリア教育担当または担当予定の教職員（小学校20名、中学校20名、高等学校20名）

(2) 日程・内容・場所・講師等（詳細は『教材資料集』参照）

時期等	内 容	目 的
7/22 (水)	講義「キャリア教育の意義と求められる背景」 (内容) キャリア教育が求められるようになった背景やその意義、キャリア教育の現代的課題について学ぶ。 実践発表「わが校におけるキャリア教育」 (内容) 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育の先進的な取組の実践発表を行う。 (講師等) 立教大学特任教授 渡辺 三枝子 (場所) 追手門学院大学大阪城スクウェア	各学校現場へのキャリア教育の意義の定着化をめざす。 学校全体としてキャリア教育に取り組む際に必要な事柄について理解する。
7/29 (水)	講義「キャリア教育を担う教員の資質・能力の向上」 (内容) キャリア教育コーディネータとして必要な資質、能力、地域や企業等との調整力について、ワークショップや研究協議を通じて学ぶ。 (講師等) 追手門学院大学教授 三川 俊樹 (場所) 追手門学院大学大阪城スクウェア	キャリア教育コーディネータを担う教員として必要な資質や能力及び保護者や地域社会、企業等との調整について理解する。
7/29 (水)	講義「キャリア・カウンセリングの意義と位置づけ」 (内容) キャリア・カウンセリングの意義と位置づけ、キャリア・カウンセリングに必要な情報提供と接し方について、演習やワークショップを通じて学ぶ。 (講師等) 追手門学院大学教授 三川 俊樹 (場所) 追手門学院大学大阪城スクウェア	ワークショップや研究協議等を通じて、キャリア・カウンセリングや各学校段階の進路を踏まえたキャリア教育の改善について理解を深める。
8/12 (水)	ワークショップ「ものづくり企画・提案を通して学ぶキャリア教育」 (内容) 「こんな学校欲しかってん」などの課題解決型プログラムを通じて知識を活用する方法を学ぶ。 (講師等) 南大阪地域大学コンソーシアム 難波美都里 (場所) 大阪府教育センター	実際に企業で行われている商品企画と同じ方法（課題解決型プログラム）を通して、論理的思考の方法や知識を活用する方法を学ぶ。

8/12 (水)	プレゼンテーション「ものづくり企画・提案を通してキャリア教育リーダーを育成する」 (内容) 企画提案づくりを通して社会人基礎力を育成する方法及び効果的なプレゼンテーションの方法などを体得する。 (講師等) 南大阪地域大学コンソーシアム 難波美都里 (場所) 大阪府教育センター	課題解決的な思考方法を体験するとともに、効果的なプレゼンテーションの方法についても体得する。
9/4 (金)	演習「キャリア教育充実のためのプログラムの作成」 (内容) 学校が抱えている課題を踏まえて、キャリア教育視点を取り入れた教科プログラムや職場体験プログラムなどを作成する。 (講師等) 南大阪地域大学コンソーシアム 黒木 淳 (場所) 大阪府教育センター	校種別に班に分かれ、各校段階におけるキャリア教育の充実のためのプログラムを作成することで、キャリア教育担当者としての能力を育成する。
10/9 (金)	講義「現場における実証研修」の職員事前研修 (内容) 講義「キャリア教育が求められている意義と背景」、総合的な学習の時間を活用した「プロに聞く」の事前学習、事後学習の説明。 (講師等) 大阪府教育センター指導主事、南大阪地域大学コンソーシアム研究員 (場所) 大阪府立枚方なぎさ高等学校	学校現場において、教職員のキャリア教育に対する理解を深めるとともに、キャリア教育実証研修のためのプログラムを説明する。
10/29 (木)	実証研修「現場における実証研修」① (内容) 本研修の受講者が学校現場でキャリア教育の授業実践（事前学習）を行う。 (講師等) 大阪府教育センター指導主事等 (場所) 大阪府立枚方なぎさ高等学校	企業・学校・教育委員会・地域をつなぐキャリア教育担当者が、学校現場にて担当学年に対するキャリア教育の授業支援及び授業実践を行う。
11/5 (木)	実証検証「現場における実証検証」② (内容) 本研修の受講者が学校現場でキャリア教育『プロに聞く』の授業実践を行う。 (講師等) 大阪府教育センター指導主事等 (場所) 大阪府立枚方なぎさ高等学校	企業・学校・教育委員会・地域をつなぐキャリア教育担当者が、学校現場にて担当学年に対するキャリア教育の授業支援及び授業実践を行う。
11/12 (木)	実証研修「現場における実証研修」③ (内容) 本研修の受講者が学校現場でキャリア教育の授業実践（事後学習）を行う。 (講師等) 大阪府教育センター指導主事等 (場所) 大阪府立枚方なぎさ高等学校	企業・学校・教育委員会・地域をつなぐキャリア教育担当者が、学校現場にて担当学年に対するキャリア教育の授業支援及び授業実践を行う。
1/12 (火)	研修の評価「地域協議会」の開催 (内容) 近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪府商工部等によって構成される地域協議会を開催し、研修の評価及び改善を行う。 (講師等) 大阪府教育センター指導主事等 (場所) 未定	地域との連携を図り、研修の効果測定を行うことによって、研修の評価及び次年度以降の研修の改善を図る。



7/22（水）立教大学特任教授 渡辺三枝子先生 7/29（水）追手門学院大学教授 三川俊樹 先生



8/12（水）プレゼンテーションの様子



11/5（木）枚方なぎさ高校での実証研修の様子



11/5（木）『プロに聞く』の授業風景

③企画、実施、評価に当たっての工夫・留意点

- ・研修の企画・実施及び評価・改善するために、大学教授、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員等によって構成される地域協議会を設置した。
- ・研修を実施するだけでなく、研修受講者が大阪府教育センター及び連携先の南大阪地域大学コンソーシアムの支援をうけて、キャリア教育に関する授業実践を行った。
- ・Web上で、教育委員会や学校、教員などだれでも利用できる南大阪地域大学コンソーシアムの検証システムを活用して本研修の効果を測定した。
- ・研修終了後、研修受講者に対するアンケートを実施し、本研修の地域及び校内における活用状況を追跡調査した。

Ⅱ 開発の実際とその成果

1 開発の実際

(1) 本研修に対する受講者の評価

(小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修の受講者アンケートより作成)

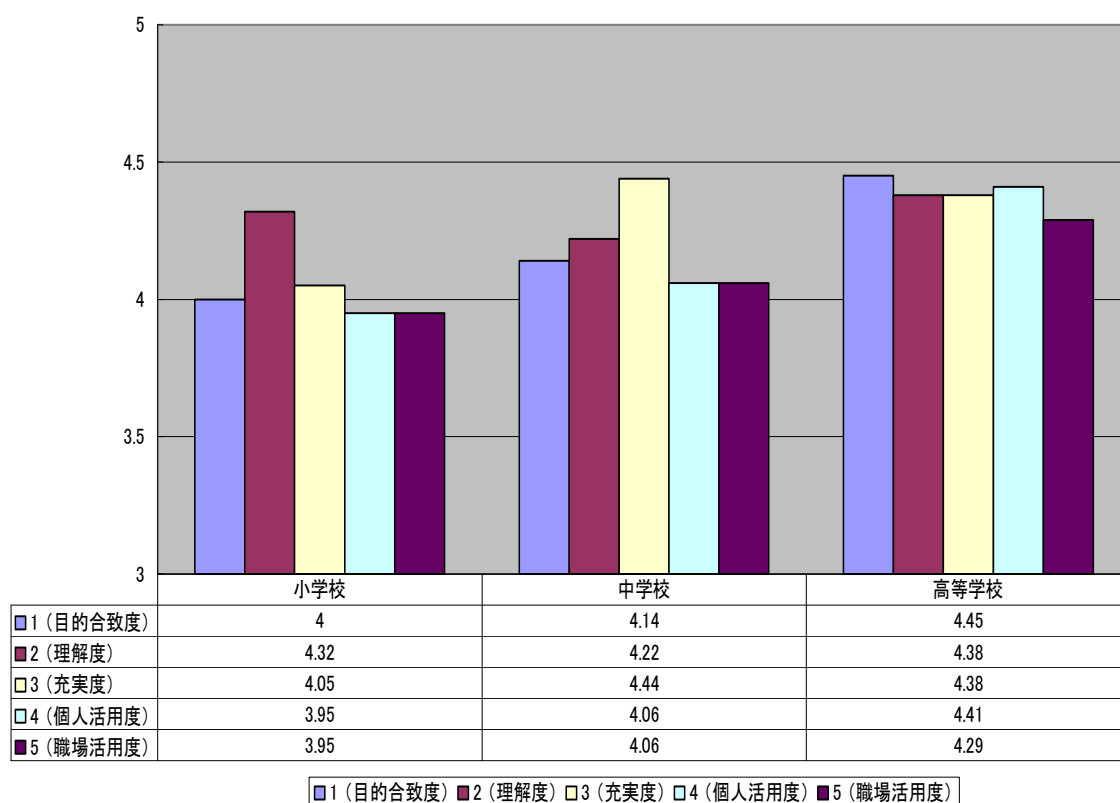
※アンケート回答総数(小学校 19 名、中学校 36 名、高等学校 29 名)

- 1 受講された研修は、あなたの期待や要望にこなえていると思いますか？(目的合致度)
- 2 研修の内容は、理解できたと思いますか？(理解度)
- 3 研修の内容は、充実していたと思いますか？(充実度)
- 4 この研修で得たことを、今後の職務に生かすことができますと思いますか？(個人活用度)
- 5 この研修で得たことを、あなたの職場で報告したり、広めたりしたいと思いますか？(職場活用度)

(アンケート回答方法)

ア とてもそう思う イ まあまあそう思う ウ あまりそう思わない エ 全くそう思わない

小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修アンケート集計結果



※注 アンケート集計結果は、「とてもそう思う」を5、「まあまあそう思う」を4、「あまりそう思わない」を3、「全くそう思わない」を2として加重平均したものである。

(2) 上記アンケート及び受講者の自由記述からの分析

①アンケート結果からの分析

- ・就職や進学など将来に直結する上級学校ほど、キャリア教育に関する研修への期待度が高いことがわかる。
- ・本研修は、キャリア教育が求められる背景とその意義、実践発表、キャリア・カウンセリング、企画・提案型キャリア教育の体験、キャリア教育のプログラムづくりを主な内容としており、研修内容は充実していたことが伺われる。
- ・個人活用度及び職場活用度の評価から、研修への期待度の高さが、研修成果の活用に関連していることが伺われる。特に小学校の評価が低いことから、校種（発達段階）を考慮した研修内容の工夫が望まれる。さらに、職場活用度が他の項目に比べて低かった。これは、キャリア教育が教育活動全体を通じて学校の組織全体で取り組むべき課題であり、キャリア教育コーディネータの在り方の難しさを示しているといえる。

②自由記述から見てくる現場のニーズ

※本研修を希望した受講者の理由

- ・「キャリア教育とは何か」について学習したい。
- ・「校内でキャリア教育をすすめるためのプログラムづくり」について学習したい。

※本研修のよかった点

- ・「キャリア教育の視点」について知識を深めることができた。
- ・「キャリア・カウンセリング」のスキルを高められた。
- ・講演、見学、体験を通して感想をまとめさせるというこれまでのイベント的なプログラムを見直すヒントをもらえた。

※本研修に対する要望

- ・小学校を中心とした小学校で生かせる内容をピックアップしてほしい。
- ・様々な教育課題を抱える学校にも合うようなタイプのプログラムを知りたい。
- ・評価に関してもう少し具体的な手法を教えてほしい。
- ・教科におけるキャリア教育の実践例を教えてほしい。

(3) 地域及び校内における本研修の活用状況（アンケート回収数 20）

①研修成果の活用内容

- ・校内の研修会・報告会等において研修成果の報告
- ・総合的な学習の時間等で活用
- ・音楽や英語、職業科目等の授業で活用
- ・進路指導等のキャリア・カウンセリングで活用

②研修成果活用にあたっての今後の課題

- ・教職員間にキャリア教育に対する理解が浸透していない。

- ・研修活用にあたって利用できる教材・資料が不足している。
- ・研修の成果を活用できる機会がない。
- ・研修内容の充実や改善が必要である。
- ・キャリア教育を進める環境の整備が必要である。

2 実証研修における効果測定について

(1) 「キャリア教育指導者養成」研修の実証検証プログラム

場所：大阪府立枚方なぎさ高等学校

授業者：指導教諭 櫻井 佳子

講座全体の目的
①自己分析→②プロの話を聞く→③今大事なことを整理する、という3ステップを踏むことによって、職業観・勤労観を育成するとともに、これからの「学び」につなげる。

① 事前学習 平成21年10月29日（木）

目的：未来と現在をつなげるために、「プロに聞く」のポイントを整理する

ポイント：①自己分析 ②プロの話を聞くポイントの整理

日程	時間	講座	内容
10/19	5分	挨拶	・ 目的 ・ 来週の授業「プロに聞く」について ・ アンケート記入
	10分	授業説明	・ プロの話を聞くポイント ・ 自己分析の必要性 ・ 自己分析の手法
	15分	自己分析	・ 自己分析の書き出し 『自分の中のいろんな可能性を発見しよう』実施
	10分	特性 選択	・ 自己の特性 選択 ・ グループ共有
	5分	振り返り	・ 自己分析 振り返り ・ プロの話を聞くポイント
	5分	ポイント	・ 振り返りシートの記入

② キャリア教育『プロに聞く＝仕事発見の旅』 平成21年11月5日（木）

・ 目的

「自分の夢探し」から「自分の夢に迫る」をテーマに、将来、社会とどのように関わり、どのような役割を果たしていくことができるかを考えさせ、自分たちの人生観や職業観を幅広

い視点から探る。

・実施形態

分科会形式で、社会の第一線で活躍しているプロに、仕事の厳しさや喜び、今の仕事に就いたきっかけや高校時代の様子などを話してもらうとともに、実際に職業体験をする。

・職種

保育士、介護福祉士、鍼灸師・スポーツトレーナー、助産師、放送関係、造園・園芸、カメラマン、美容師、自動車整備士、調理師・製菓・製パン、コンピュータ関係、音楽関係、サービス関係（観光）、歯科技工士・衛生士、語学関係

③ 事後学習 平成 21 年 11 月 12 日（木）

目的：「プロに聞く」でのポイントを整理し、これからの「学び」につなげる。

ポイント：①ポイントの整理②まとめ

日程	時間	講座	内容
8/18	5 分	挨拶	・ 目的 ・ 前回の時間の振り返り
	20 分	『プロに聞く！』のまとめ	・ まとめ ・ ポイントの整理
	20 分	将来につなげる	・ 将来について ・ 将来のために必要なことについて
	5 分	振り返り	・ 振り返り ・ アンケート記入

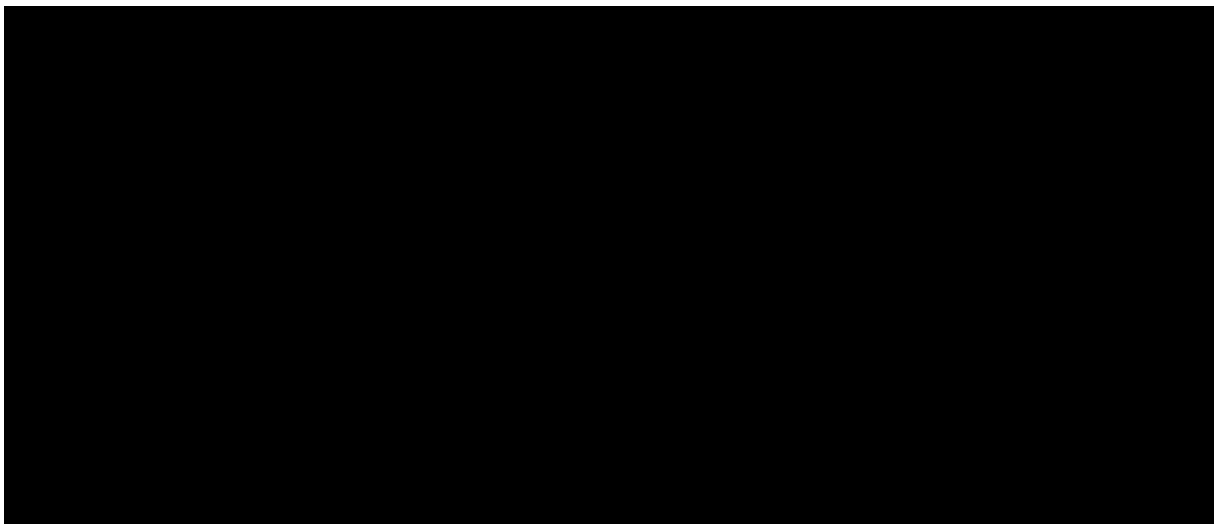
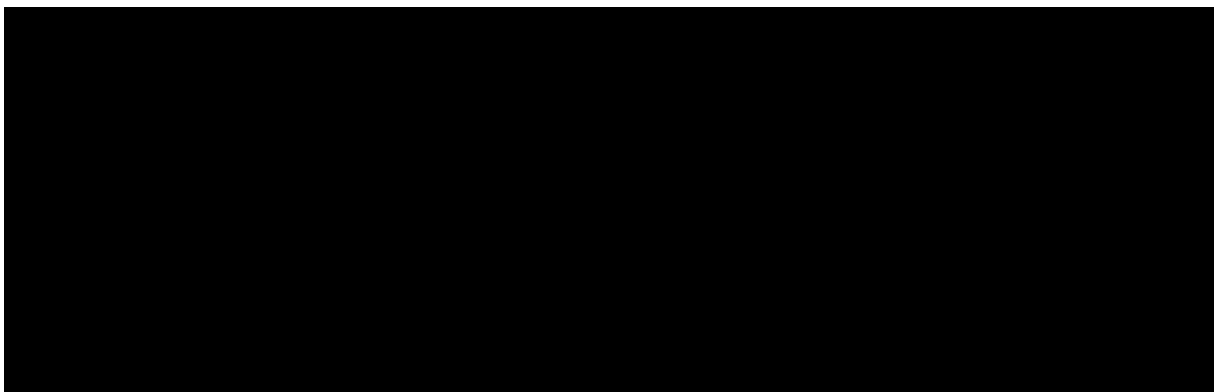
（２）効果測定について

実証研修における効果測定は、南大阪地域大学コンソーシアムが開発した①「人間基礎力」の測定指標を活用した効果測定及び授業後のアンケート調査による結果を分析した。

① 「人間基礎力」の測定指標を活用した効果の測定

「人間基礎力」の測定指標を活用した効果測定では、培われた能力について測定し、その効果によって本教育プログラムの有効性について検証した。本指標は、平成 17 年度から平成 19 年度にかけて南大阪地域大学コンソーシアムが堺市で実施した経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育～ものづくりのまち堺から発信する「こんなモノ欲しかってん！」事業のなかで設置された「キャリア教育プロジェクト研究会」で策定されたものである。以下は、「キャリア教育プログラムの効果測定」『キャリア教育プロジェクト研究会報告書 Education for the future』（西道実（プール学院大学教授）、2007 年、南大阪地域大学コンソーシアム発行）から抜粋し、要約した。

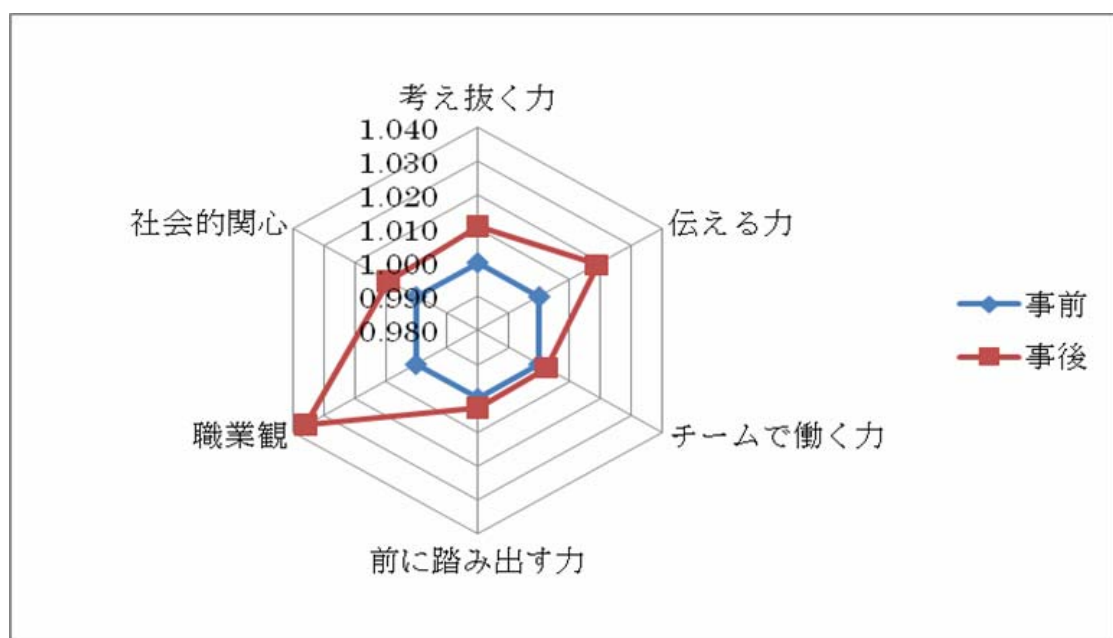
効果測定 の 指標は、文部科学省の提言に示された4領域8能力(表1)、経済産業省の提案する12の「社会人基礎力」(表2)、さらにPISA(Programme for International Student Assessment)型のリテラシー(OECDが提言する数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力、問題解決能力の4つ)やこれまでのキャリア教育の実践経験の中で経験的に見出されたさまざまな能力に関する評価の指標を同列に並べ、それぞれの能力に関する概念的定義を比較検討しながら、重複を避け、かつ、できる限り育成を意図する「人間基礎力」を網羅的に扱うことができるよう、8つの項目に集約し整理している。その8つの項目とは、「考え抜く力」「伝える力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」「達成動機」「職業観」「自己肯定観」「社会的関心」である。



今回現場実証を行った大阪府立枚方なぎさ高等学校にて、授業を開始する前(事前)と授業が終わった後(事後)に受講生徒を対象としたアンケートを取った。今回は短期間であったため自己肯定観と達成動機について測定できなかったが、それ以外の項目について、実施7クラスの効果測定の結果を下記の通り報告する。

	考え抜く力	伝える力	チームで働く力	前に踏み出す力	職業観	社会的関心
事前	2.65	2.508	2.855	2.642	3.438	3.125
事後	2.679	2.555	2.861	2.649	3.561	3.15

	考え抜く力	伝える力	チームで働く力	前に踏み出す力	職業観	社会的関心
事前	1	1	1	1	1	1
事後	1.010943	1.01874	1.002102	1.00265	1.035777	1.00896



上記効果測定の結果からの分析は以下である。

- ・授業回数3回と比較的短期間の測定であったため、受講生徒の意識の変容はわずかである。
- ・すべての項目が事前から事後にかけて伸びていることがわかる。
- ・職業観の項目が3.438から3.561と最も伸びており、本プログラムが生徒の職業観に対して特に効果のあったことがわかる。

② 事後学習時のワークシートに生徒が記述した項目

事後学習時に使用したワークシートに生徒が記述した項目の結果によって、今回の学習が生徒にとってどのような効果をもたらしたかを分析する。事後学習のワークシートでは、下記3つの質問に対して生徒が考えを書く形式で作成されている。質問内容と、質問への回答の一例

は以下のとおりである。

(a) 自分と将来について授業を通して考えたことを書きましょう。

- ・真剣に保育士になろうと思った
- ・人の役に立つ仕事を楽しくできたらいい
- ・プロに聞くですごく勉強になった
- ・やりたいことを時間がかかってもいいから見つけたい。
- ・夢をかなえたり自分の好きな職業につくということはとても大変なことで努力がいるということ。

(b) 将来のために必要なことを書きましょう。

- ・将来のために今はとにかく勉強する
- ・接客でみとめられないと調理できない
- ・人見知りをせず人間関係を大切に。

(c) 今自分に一番大切なことを宣言しよう！

- ・将来について真剣に考え勉強も真面目に取り組む
- ・色々な人とコミュニケーションをとる！
- ・一生懸命やる。あきらめない！

上記で特に特筆すべきことは、いずれの質問に対しても、今の自分に必要なことは「勉強」であると回答した生徒が多かったことである。ある 1 クラスでは、40 名中 32 名の生徒が「勉強」に関する回答しており、勉強に対する意識に何かしら変化をもたらしたことがわかった。

3 地域協議会からの提言－研修の評価及び改善

(1) キャリア教育を推進するために必要な環境整備について

- ・キャリア教育の意義や重要性に対する教職員の認識を高める必要がある。

例：キャリア教育を実践することによって、進路未定率が減少

- ・学校の教育活動全体でキャリア教育を推進する環境を整備する必要がある。

例：キャリア教育推進部等の校内組織の整備、職員研修、活用できるワークシート等

- ・円滑な校種間の接続をはじめ、地域の人材活用など地域との連携を進める必要がある。

例：NPO 法人や企業、大学等との連携

- ・キャリア教育コーディネータの育成を図る必要がある。

例：各校及び市町村との協力が必要

(2) 次年度以降の研修に生かしたいこと（今年度の反省を踏まえて）

- ・キャリア教育の定義や意義を最初におさえること。
- ・キャリア・カウンセリングのスキルを高める内容を盛り込むこと。
- ・各校における実践発表を設けること。
- ・教科におけるキャリア教育の内容を盛り込むこと。
- ・キャリア教育の評価に関する内容を盛り込むこと。

4 研修の成果

(1) 作成教材等

- ・平成21年度小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成研修」－社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむ－のホームページ作成
(http://www.osaka-unicon.org/career_leader/)
- ・研修全体及び実証研修のDVD教材の作成（平成22年3月予定）
- ・演習用の教材資料集の作成（平成22年3月予定）
- ・報告書の作成（平成22年3月予定）

(2) 他の教育委員会に参考にしてもらいたいこと

- ・「キャリア教育指導者養成」研修の内容及び教材資料（ホームページ参照）
- ・研修等に関する効果測定の内実について（ホームページ参照）
- ・関係機関及び地域との連携の内実について（本報告書参照）
- ・研修の実証検証の内実について（本報告書及びホームページ参照）

Ⅲ 連携による研修についての考察

1 本研修で開発した関係機関との連携プログラムについて

本連携取組で開発した研修プログラムは、地域連携型キャリア教育を学校現場に広めていくことを目的としている。そこで、研修及びキャリア教育実践が円滑に推進できるよう、大阪府教育センターと南大阪地域大学コンソーシアムだけでなく、大阪商工会議所、大阪府キャリア教育支援拠点運営協議会、近畿経済産業局、大学等と広く連携し、地域協議会を設置した。地域協議会のメンバーは、大阪府教育センターや南大阪地域大学コンソーシアムがもつネットワークを活用し、広く連携、支援を求め、研修で学んだキャリア教育の実践の円滑な運営を図ることができる

よう体制づくりに協力、支援することとした。

2 南大阪地域大学コンソーシアムについて

(1) 南大阪地域大学コンソーシアムの取組について

南大阪地域大学コンソーシアムは、南大阪地域等の 21 の大学・短大・専門学校が連携、協力し、地域の学術機能の向上と産官学地域連携の推進をめざして、単位互換、高大連携、地域講座、インターンシップ、キャリア教育支援、映画祭、研究者データベースの提供等、多種多様な事業に取り組んでいる。事業は、学生や教職員、大学のもつ知的資源を活用したもので、活動の中心は学生であり、教職員がそれら活動を支援している。近年大学は、教育・研究につぐ大学の第三の機能として大学が地域に対して負う社会的責任（USR）を果たすことが求められている。南大阪地域大学コンソーシアムでは、多種多様な連携活動を通じて、地域課題を常に意識し、地元自治体の意向にも応えながら地域課題と連動した事業展開を行っている。

(2) 南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育事業に関する取組みについて

(ア) 生きる力（人間基礎力）を育成するキャリア教育の必要性和プログラム化

子どもたちをとりまく社会が多様化し変化を続ける中、子どもたちの生きる力を育成する点から、児童・生徒が早い段階から働くことに触れ、職業意識を育てる「キャリア教育」を通じて、学習意欲や社会への関心を高めるとともに、将来社会で力強く生きていく力を育てるキャリア教育が重要である。この認識の下、それらをプログラム化している。

(イ) 小中学校を中心とした学校園で「地域連携型キャリア教育」を支援

南大阪地域大学コンソーシアムでは、平成 17 年度から、経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育事業」を受託し、堺市、大阪市内の小中学校を中心とした学校園で、教育委員会、企業、経済団体、自治体、地域、大学と連携して、学校現場だけでなく産業界や地域が一体となって本モノの社会的視点を持ちこむ「地域連携型キャリア教育」を支援してきた。キャリア教育の現代的課題を教員と共に考え、キャリア教育プログラム、シラバス、テキスト・ワークシートを提供し、多くの学生を子どもたちのティーチングアシスタントとして授業に送り込んでいる。平成 20 年度からは、経済産業省「キャリア教育コーディネータ育成・評価システム事業」を受託し、地域連携型キャリア教育実践の学校支援を行うキャリア教育コーディネータの国家資格化に係る研修プログラムづくり、評価指標づくり、実習研修などを試行・検証している。

3 連携の実績及び成果

(1) 南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育プログラムを研修で活用

南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育プログラムは、キャリア教育を「人間

基礎力」の育成として捉え、社会で力強く生きていくために必要な基礎的スキルの獲得、特に論理的に課題解決を行うために「思考リテラシー」の獲得をめざすとともに、現代の子どもたちが最も足りないと言われている「社会的視点」「他者への関心」を身に付けることをめざしている。本研修では、ワークショップ「こんな学校欲しかったん」という課題解決型プログラムを通じて知識を活用する方法を学ぶことができた。

（２）実証研修における連携

大阪府立枚方なぎさ高等学校における実証研修において、大阪府教育センターと南大阪地域大学コンソーシアムが連携して、キャリア教育の校内研修及び本研修受講者による授業実践を支援

① 校内研修で教職員のキャリア教育に対する共通理解を図った。

キャリア教育『プロに聞く』の校内研修として、教職員のキャリア教育に対する共通理解を図るとともに、南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育プログラムの事前指導及び事後指導の説明を実施した。

② キャリア教育『プロに聞く』を系統的・組織的に実施するため、南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育プログラムを活用しての事前指導及び事後指導を実施。

- ・事前指導では、自分の中のいろんな可能性を発見するために、「自己分析シート」を活用して自分の特性を理解し、『プロに聞く』のポイントをまとめさせた。
- ・事後指導では、『プロに聞く』のポイントをまとめさせるとともに、自分の将来について考察させ、学ぶ意欲の向上につなげた。

③ 授業実践では大学生がアドバイザーとして活躍

- ・事前指導では、1年生の各教室に南大阪地域大学コンソーシアムの学生アドバイザーが入り込み、自己分析の際に様々なアドバイスを送るという形で担任の補助を行った。

（３）南大阪地域大学の研修の効果測定システムを活用

前述の南大阪地域大学コンソーシアムが「人間基礎力」と定義づけその指標のもとに行っている効果測定を活用して、実証検証の効果測定を実施した。

（４）研修の成果物における連携

- ・研修教材資料集作成における連携協力
- ・報告書作成における連携協力
- ・大学の映画サークルを活用してのDVD作成
- ・ホームページ作成における連携協力

4 連携によるメリット

(1) リソース等の活用

南大阪地域大学コンソーシアムが有している様々なキャリア教育に関するリソースを活用できた。

- ・先進的なキャリア教育研修プログラム
- ・南大阪地域大学コンソーシアムのキャリア教育プログラムを実践している学校の紹介
- ・研修の効果測定
- ・研修講師等の人材活用
- ・大学教授及び学生等、高等教育機関との連携
- ・DVDやホームページ作成などのIT技術の活用

(2) ネットワークの拡大

教育センター及び南大阪地域大学コンソーシアム双方のネットワークを利用して、地域協議会を設置し、定期的に開催できたことで、地域連携型キャリア教育を推進するためのネットワークが一層広がったこと。

(3) 地域協議会による提言の活用

教育分野のみならず産業・経済分野からも多様な提言を出され、研修の評価・改善に生かすことができたこと。

(4) 双方向の連携体制の構築

南大阪地域大学コンソーシアムが行っている「キャリア教育コーディネータ養成事業」や「キャリア教育フォーラム」等に大阪府教育センターが協力したり、本研修受講者に案内を送付したりするなど、双方向の連携体制が構築できたこと。

IV その他

- ・追手門学院大学、大阪商工会議所、大阪府キャリア教育支援拠点運営協議会、近畿経済産業局等の関係者には、本研修に多方面でご協力いただいた。
- ・次年度は、本研修を継続した形で、大阪府立大学と連携した「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修プログラムの開発－社会的自立・職業的自立に必要な基盤能力の育成のために－」を実施する予定である。

V 参考資料

1 本研修の日程表

(1) 第1回実施日程・内容

1 日 時 平成21年7月22日(水) 14:00～17:00

2 会 場 追手門学院大学 大阪城スクエア

3 日程・内容等

時 間	内 容 等	講 師 等
14:00～14:05	あいさつ・日程説明等	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛
14:05～15:35	講義・ワークショップ 「キャリア教育の意義と求められる背景」	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授 渡辺 三枝子
15:35～15:45	休 憩	
15:45～16:30	小・中・高等学校におけるキャリア教育 の事例発表	堺市立西陶器小学校 教諭 清水 順子 教諭 坪田 桂子 大阪市立天満中学校 教諭 森 亜矢子 教諭 西田 清盛
16:30～16:50	講評・質疑応答	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授 渡辺 三枝子
16:50～17:00	まとめ・諸連絡・アンケート記入	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛

(2) 第2・3回実施日程・内容

1 日 時 平成21年7月29日(水) 10:00～17:00

2 会 場 追手門学院大学 大阪城スクエア

3 日程・内容等

時 間	内 容 等	講 師 等
9:30～10:00	受付(6階ホール前)	
10:00～10:10	あいさつ・日程説明等	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛
10:10～11:45	講 義・演 習 「キャリア教育を担う教員の資質・能力の 向上」	追手門学院大学 心理学部心理学科 教授 三川 俊樹
11:45～12:00	質疑・応答	
12:00～13:00	昼 食	
13:00～15:00	講 義・ワークショップ 「キャリア・カウンセリングの意義と位置 付け」	追手門学院大学 心理学部心理学科 教授 三川 俊樹
15:00～15:15	休 憩	
15:15～16:45	講 義・ワークショップ 「キャリア・カウンセリングの基礎」	追手門学院大学 心理学部心理学科 教授 三川 俊樹
16:45～16:55	諸連絡・アンケート記入	
16:55～17:00	次回連絡	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛

(3) 第4・5回実施日程・内容

1 日 時 平成21年8月12日(水) 10:00～17:00

2 会 場 大阪府教育センター 第3研修室(本館4階)

3 日程・内容等

時 間	内 容 等	講 師 等
10:00～10:10	あいさつ・日程説明等	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛
10:10～10:30	講義 「大阪府におけるキャリア教育」	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛
10:30～11:30	講 義 「キャリア教育の現代的課題」	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里
11:30～12:00	講 義 「学力につながるキャリア教育プログラムについて考える」	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里
12:00～13:00	昼 食	
13:00～15:00	ワークショップ 「ものづくり企画・提案プログラムーこんな学校欲しかってん!ー」	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里 研究員 黒木 淳 研究員 松田 拓 大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 首席指導主事 森 哲仁
15:00～15:15	休 憩	
15:15～16:10	研究協議・プレゼンテーション・講評	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里 研究員 黒木 淳 研究員 松田 拓
16:10～16:50	講義 「キャリア教育プログラムの効果を測定しよう」	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里
16:55～17:00	アンケート記入・次回連絡	大阪府教育センター カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛

(4) 第6回実施日程・内容

1 日 時 平成 21 年 9 月 4 日 (金) 14 : 00 ~ 17 : 00

2 会 場 大阪府教育センター 第 3 研修室 (本館 4 階)

3 日程・内容等

時 間	内 容 等	講 師 等
14 : 00 ~ 14 : 05	あいさつ・日程説明等	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛
14 : 05 ~ 14 : 45	講義・ワークショップ 「キャリア教育のプログラムを考えよう」	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里 研究員 黒木 淳 研究員 松田 拓
14 : 45 ~ 15 : 00	休 憩	
15 : 00 ~ 16 : 45	ワークショップ 「キャリア教育のプログラムを作ってみよう」 研究協議・プレゼンテーション・講評	南大阪地域大学コンソーシアム コーディネータ 難波 美都里 研究員 黒木 淳 研究員 松田 拓
16 : 45 ~ 17 : 00	まとめ・諸連絡・アンケート記入	大阪府教育センター 教科教育部 カリキュラム研究室 主任指導主事 稲葉 剛

2 地域協議会設置要綱

平成 21 年度「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会設置要綱

1 本会は『キャリア教育指導者養成研修』に係る地域協議会」と称する。

2 目的

本会は、大阪府教育センター平成 21 年度「キャリア教育指導者養成研修」が独立行政法人教員研修センターの平成 21 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムに採択されたことをうけて、本研修の実施及び改善に関する指導・助言、提言を行うことを目的とする。

3 構成員

本会は、大阪府内におけるキャリア教育の研究に従事するものをもって組織する。

委員は大阪府教育センター所長が委嘱するものとし、任期は 1 年とする。

4 会長及び副会長

本会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

5 会議の招集

本会の会議は、必要に応じ、大阪府教育センター所長が招集し、年に 2 回程度開催する。

6 事務局

本会の事務局は、大阪府教育センター教科教育部カリキュラム研究室内におく。

(附則) この要綱は、平成 21 年 4 月 1 日より施行する。

(構成員)

所 属	職 名	氏 名	備 考
追手門学院大学	教授	三川 俊樹	
大阪商工会議所	人材開発部課長	廣田 雅美	
大阪キャリア教育支援拠点運営協議会	事務局長	吉田 聡	
近畿経済産業局	地域経済部 産業人材政策課長	内海 美保	
南大阪地域大学コンソーシアム	コーディネータ	難波 美都里	副会長
南大阪地域大学コンソーシアム	研究員	黒木 淳	
南大阪地域大学コンソーシアム	研究員	松田 拓	
府立枚方なぎさ高等学校	指導教諭	櫻井 佳子	
府立佐野高等学校	指導教諭	奥野 周司	
大阪府教育センター	教科教育部長	落合 清茂	会長
大阪府教育センター	首席指導主事	森 哲仁	事務局長
大阪府教育センター	主任指導主事	稲葉 剛	事務局

3 地域協議会の記録

(1) 第1回「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会

①日時：5月22日（金）16:00～18:00

②場所：追手門学院大学大阪城スクウェア中会議室

③会議の内容

- ・「平成21年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」及び「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム実施計画書」についての説明（事務局）
- ・地域協議会設置要綱に基づいて、会長及び副会長を選出
会長 落合清茂（大阪府教育センター教科教育部長）
副会長 難波美都里（南大阪地域大学コンソーシアムコーディネーター）
- ・実施日程及び内容についての検討
- ・委員から出された主な意見

※学校現場の現状について

- ・キャリア教育＝職業観、勤労観をはぐくむ教育という狭義の意味で捉えがちである。
- ・総合的な学習の時間にキャリア教育的な内容を取り入れている学校もあるが、現行カリキュラムでは、教科指導で忙しく時間的余裕がない。
- ・カリキュラム編成が大きな壁になっている。
- ・キャリア教育の目的や内容にブレがあるので、整理する必要がある。
- ・キャリア教育といっても現場がイメージできない。
- ・これまでの教育は「何のために働くのか」、「何のために学ぶのか」という問いに十分に答えてこなかった。
- ・生徒の生き方のモデルとなるような人物と接する機会が少ない。
- ・インターンシップの目的が明確化されていない。

※本研修で大切にしたいこと。

- ・キャリア教育では社会とのつながりを大切にする必要がある。
- ・キャリア教育を通じて、どんな学力をつけたいのかを明確にする必要がある。
- ・キャリア教育においては、適切なコミュニケーションの力をつけることが必要である。
- ・一人ひとりのキャリア発達を支援するために、キャリア・カウンセリングの視点、子どもたちの成長・発達を促すための適切なコミュニケーションが大切である。
- ・学校、家庭、産業界、地域全体で取り組むという組織性や異なる世代とのかわり（世代性）を組み込むことが大切である。

- ・職業教育、キャリア教育の定義を、本事業を通して明らかにできればと期待する。
- ・南大阪地域大学コンソーシアムでは、キャリア教育は「生きていくために必要な力をはぐくむ」社会人基礎力と位置づけている。だから、キャリア教育は「生きていくために必要な力をはぐくむ」、「学校と社会をつなぐ」という視点を大切にしたい。

（２）第２回「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会記録

①日時： 7月22日（水）17:00～19:00

②場所： 追手門学院大学大阪城スクウェア中会議室

③会議の内容

研修のねらいの確認

- ・第１回
 - ・キャリア教育の定義、教育目標を渡辺先生に明確化していただく。
 - ・先進的な事例発表校に依頼。大阪市立天満中学校、堺市立西陶器小学校
- ・第２・３回
 - ・一人ひとりのキャリア発達を支援するために、キャリア・カウンセリングの必要性を明らかにするとともに、演習を通じて、受講者にキャリア・カウンセリングの基礎を体得してもらう。
- ・第４・５回
 - ・受講者に南大阪地域大学コンソーシアムのプログラムを実体験してもらうとともに、その効果測定の在り方についての理解を深めてもらう。
- ・第６回
 - ・受講者に児童生徒の発達段階や各学校の実態に合わせたキャリア教育プログラムを作成してもらう。
- ・実証検証について
 - ・大阪府立枚方なぎさ高等学校指導教諭の櫻井佳子先生に依頼する。

（３）第３回「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会記録

①日時： 7月29日（水）17:00～19:00

②場所： 追手門学院大学大阪城スクウェア中会議室

③会議の内容

第４・５回の研修内容の詳細について

- ・南大阪地域大学コンソーシアムのプログラムは、「こんな学校欲しかったん！」に決定
- ・ミッションの提案者は大阪府教育センター カリキュラム研究室長 森哲仁

第6回の研修内容について

- ・キャリア教育プログラムはマニュアルを提示した後、個別に作成する。

実証検証の日程について

- ・授業者は大阪府立枚方なぎさ高等学校 指導教諭 桜井佳子先生

10月9日（金）職員事前研修：キャリア教育の意義について

「プロに聞く」事前及び事後指導について

10月29日（木）「プロに聞く」事前指導（自己分析をさせる）

11月5日（木）「プロに聞く」

11月12日（木）「プロに聞く」事後指導（授業や学力の向上につなげる）

（４）第４回「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会記録

①日時：10月29日（木）16:00～18:00

②場所：大阪府立枚方なぎさ高等学校

③会議の内容

- ・職員事前研修及び「プロに聞く」事前指導の公開授業について
- ・情報交換
熊本県立鹿本高等学校の「総合的な学習の時間」の取組についての報告
福岡県立城南高等学校の「総合的な学習の時間」の取組についての報告
- ・研修の報告書についての検討

（５）第５回「キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会記録

①日時：1月12日（火）16:00～18:00

②場所：大阪府教育センター

③会議の内容

- ・平成21年度「キャリア教育指導者養成研修」中間報告資料について
- ・研修受講者の評価及び感想について
- ・研修全般をまとめたDVDについて
- ・現場での実証検証についての総括
- ・本研修全体に関する総括と次年度に向けての提言

④提言の内容

- ・キャリア教育の意義や重要性に対する教職員の認識を高める必要がある。
- ・分かりやすいプログラムの提供が必要である。
- ・キャリア教育の実践例や組織、全体計画に関する情報を提供していく必要がある。
- ・学校の教育活動全体でキャリア教育を推進する環境を整備する必要がある。
- ・円滑な校種間の接続をはじめ、企業との連携や地域の人材活用など地域との連携を進める必要がある。

- ・キャリア教育と毎日の学習を結びつける必要がある。
- ・継続的にキャリア教育を進めていくためには、ワークシートなどの教材、職員研修、キャリア教育推進部などの組織の整備が必要である。
- ・キャリア教育コーディネータの育成を図る必要がある。

VI 「キーワード」「人数規模」「研修日数（回数）」

- (1) キーワード
「キャリア」「地域連携」「コーディネータ」「効果測定」
「思考リテラシー」
- (2) 人数 C（50名）
- (3) 研修日数 C（6回）